



ダンサー

丹羽 洋子

NIWA YOKO

1977年 千葉県出身

2017年 柏崎市へ

<https://yokoniwa.jimdo.com>



恒例となった冬の音市場。今回初出演のダンサー、丹羽洋子さんはアルフォーレのステージでコンテンポラリーダンスを披露する。コンテンポラリーという言葉には同時代の、いまの、といった意味があり、コンテンポラリーダンスはいまの時代を生きる感性から生まれる既存の枠にとらわれない自由な身体表現を指す言葉だと丹羽さんは話す。

子供の頃からバレエが大好きで6歳からクラシックバレエを始め、97~01年に谷桃子バレエ団に所属するなどバレエが生活の中心だった。在団中に出演した作品からコンテンポラリーダンスに興味を持ち、退団後国内外の様々な振付家・ダンサーに学び、多様なダンスや表現に出合ったという。ニューヨークやイスラエルでの短期研修やコンテンポラリーダンスの舞台を中心に野外演劇、現代オペラ等多くの作品に出演。そして2007年頃からは自身の作品を作り始めている。

コンテンポラリーダンスには古典的なクラシックバレエのように決まった型などではなく、振付家の多様な表現やアプローチで世界観を表現する。それを体現して踊るのがダンサーの役割だという。

ダンサーには丹羽さんのようにクラシックバレエを学んできた経験者もあれば、演劇的・美術的なアプローチの仕方でもダンスを表現する人など様々ある。

学生の頃から常に生活を支えるアルバイトは欠かせなかった。長く腰痛や痛みにも悩まされながら踊ってきたため体の構造や身体と心のつながりに興味を持ち、基礎的な解剖学やパートナーストレッチを学んで資格を取得。ピラティスインストラクターやダンスセラピーリーダーの資格も持ち、身体の整え方、使い方、動きなどセルフコンディショニングの方法やダンスセラピーなどダンサーとしての活動だけではなく施術者・セラピストとしての顔ものぞかせる。

新潟県出身の夫と共に柏崎市に住み始めて間もなく4年になる。新潟へ移住してから車の免許も取り、自分の手で少しずつ家のメンテナンスやDIYも始めた。豊かな自然の中で日々を重ね、酷使してきた身体と心を丁寧にほぐしながらゆるやかに暮らしを楽しんでいる。

「どの人もその人なりの表現で自分の人生を生きていることを思うと、人生はダンスのようなものだと思う」という丹羽さん。自分を身体の外において模様を描くようにダンスするのがいまの自分のスタイル、とほほ笑む。

今年の大雪はさぞかし大変な思いをしたことだろう。その印象からか、音市場でのパフォーマンステーマは雪。音楽の構成や衣装、ダンスのステップや動き、そのすべての表現が丹羽洋子の作品だ。音市場のステージでどんなパフォーマンスが生まれるのか、その時を楽しみに待ちたいと思う。

冬の音市場 2021

2.27 sat / 2.28 sun
[15:00-] [11:00-]

柏崎市文化会館アルフォーレ 大ホール

2日間
共通チケット 前売:1,500円(当日:2,000円)
*高校生以下無料